

2022年
3月 第175号

令和4年3月29日発行

鹿児島市自衛防火防災協会
鹿児島市消防局

防火 だより



ENEOS喜入基地株式会社

鹿児島サンロイヤルホテル

ご挨拶・年間予定
「消防の変遷と自主防災組織」
鹿児島市消防局長 中村剛

P 8

保安講習
令和4年度危険物取扱者保安講習日程表
保安講習の受講義務について

P 7



活動報告
第1回定期総会・発足記念式典
新入社員等防災研修会
鹿児島県危険物安全協会表彰
消火競技会
視察研修
消防出初式



P 4 / 6

会員紹介
鹿児島サンロイヤルホテル
ENEOS喜入基地株式会社

P 2・3

第175号
ドピックス

紹介

鹿児島サンロイヤル ホテル



与次郎一丁目にある鹿児島サンロイヤルホテルは、地下1階、地上13階建の建物として昭和45年にオープン、昭和48年には鹿児島国体の宿泊施設としても提供されました。社内では定期的に防災訓練を実施しており、当協会が主催する消火競技会で、2020年に女子チーム優勝と輝かしい実績を持っています。

ホテルには250名程のスタッフが勤務しているそうですが、コロナ禍の影響で利用客が減少したことをプラスに捉え、社内教育を充実させ、新入社員を中心に30名程の若手スタッフで、全体の訓練とは別に消防訓練を行っているとのこと。地震でエレベーターが停止したことを想定し、そのような状況下でもスムーズに利用客とスタッフの安全が確保できるよう、任務分担などの体制を見直し、スタッフ一人ひとりの防火防災意識を高めることで、利用客にも安心して過ごしてもらえるよう心がけているそうです。

総務課長の仮屋正之さんにホテルのおススメを伺ったところ、

客室からのオーシャンビューや

13階レストランからの市内の眺



消火競技会で入賞！



今回お話を伺った総務課長の仮屋正之さん



▶1階のバイキングレストラン

望だそうです。
安心安全が行き届くおもてなしに、きれいな眺望、お食事を楽

しみながら堪能してみたいかがでしょうか。

会 員

ENEOS喜入基地 株式会社



産油国から大型タンカーで運ばれてくる原油を受け入れる喜入基地のタンク容量は、日本の消費量の約2週間分に相当する735万キロリットルと世界でも最大級。ここでは、世界中の様々な種類の原油をガソリンや灯油などの需要に応じて最適な配合にブレンドして国内の製油所に配送しています。また、有事に備えて原油の備蓄も行われています。日本のエネルギーの入口に鎮座して、わたしたちの生活に必要な石油の安定供給を支えている、まさに大黒柱のような存在といえます。

喜入基地では、関連会社を含め約400名の社員が、厳しい管理体制や安全指針の下に日夜業務に取り組んでおり、1969年の創業開始から50年以上にわたって安全操業が継続されています。海上・陸上をカバーする自衛防災組織は、夜間休日を問わず常時24名の警備防災体制がとられています。また、タンクの直径は100メートルと野球のグラウンドにも匹敵する大きさ。その火災に対応するために、1分間に8万リットルの放水ができる「大容量泡放



▲大容量泡放射システムの訓練

◀年に約400回以上行われる訓練の1つ



今回お話を伺った時の様子



大臣賞を受賞するなど、全国でもトップクラスの技術を備えて日々の安全を守っています。

コロナ禍のため今は中止となっている施設見学ですが、正門前での写真撮影は可能とのことですので、近くに行かれた際に立ち寄られてみてはいかがでしょうか。

射システム」のほか、大型化学高所放水車、甲種普通化学消防車、泡原液搬送車などの消防車両が備えられています。さらに、訓練については大・小あわせると年間約400回にも及び、全国の自衛防災組織が参加する消防庁主催の消火技能コンテストにおいて、令和3年度32団体の強豪の中で上位5団体に与えられる総務

第1回 定期総会・発足記念式典

令和3年5月19日

5月19日(水)、鹿児島サンロイヤルホテルに於いて、第1回定期総会及び新協会発足の記念式典を執り行いました。

記念式典には、下鶴隆央鹿児島市長、上村勝行鹿児島市防火協力会連合会会長のご臨席をいただき、鹿児島ブレイザーズリステンによる木管五重奏では、会場全体が心地よい音色に包まれ、式典の開幕にふさわしい演奏でした。

その後の表彰式では、優良事業所や優良従業員への表彰のほか、自衛防火協会や危険物安全協会の役員を長年務め、新協会発足に合わせ退任した方々に対し、賞状や記念品の贈呈を行いました。

式典終了後は、鹿児島大学共通教育センターの井村隆介准教授に、「自然災害から命を守る」というテーマで、講演していただきました。

活火山である桜島とともに生活していくうえで、もしものとき、どのようにすれば生き延びられるか考えさせられる講演会でした。



〈優良事業所表彰〉

一般事業所部会

- 独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター
- 医療法人 徳洲会 鹿児島徳洲会病院
- 株式会社 丸屋本社
- 社会福祉法人 常盤会
- 社会福祉法人 松和会 特別養護老人ホーム泰山荘
- J A 鹿児島県会館
- パシフィックグリーンセンター株式会社 南日本支店

危険物施設部会

- 有限会社 片平石油
- 株式会社 新日本科学

有限会社 片平石油



株式会社 新日本科学

〈優良従業員表彰〉

一般事業所部会

- 石丸 陽一(温泉ホテル 中原別荘)
- 岡崎 正英(鹿児島国際観光株式会社 鹿児島サンロイヤルホテル)
- 松元 秀太郎(かわもと記念クリニック)
- 福蘭 伸一(南九州日野自動車株式会社)
- 榎田 卓巳(城山観光株式会社)
- 橋口 真由美(株式会社 山形屋)
- 新山 一弘(公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院)

危険物施設部会

- 奥 悟志(サンケイ化学株式会社 鹿児島工場)
- 畦浦 孝太郎(日米礦油株式会社 鹿児島支店)
- 吉田 幸喜(東西オイルターミナル株式会社 鹿児島油槽所)
- 永野 貴博(二幸冷蔵運輸株式会社)
- 今中 恵美(大盛産業株式会社)
- 坂之上 幸也(有限会社 水口商事)
- 益満 真也(松藤商事株式会社 谷山地区共同防災センター)
- 樋高 昭則(ENEOS喜入基地株式会社)
- 田畑 博紹(ENEOS喜入基地株式会社)
- 内野 徹(岩崎産業株式会社 エネルギー部)
- 堀 大介(岩崎産業株式会社 エネルギー部)
- 久米村 英二(南国輸送株式会社)
- 有馬 純(南国輸送株式会社)

特別表彰

- 坂元 正和(学校法人 津曲学園)
- 坂口 康博(康正産業株式会社)
- 野口 桂一(公益社団法人 昭和会 今給黎総合病院)
- 福森 浩二(社会福祉法人 向陽会 やまびこ医療福祉センター)
- 瀬戸口 忠(日本瓦斯株式会社 鹿児島工場)

新入社員等防災研修会

令和3年5月26日

5月26日(水)に新入社員等防災研修会を開催しました。

研修は、午前の部に11事業所29名、午後の部に31事業所82名の参加がありました。

研修会では、救急講習、消防設備取扱訓練、暗室体験を行い、参加者全員、真剣な眼差しで取り組んでいました。

研修で学んだことを今後の火災予防や防災対策に生かし、各事業所における企業防災力の向上に繋げていってください。



鹿児島県

危険物安全協会 表彰

令和3年6月下旬

6月下旬、鹿児島県危険物安全協会会長表彰の伝達を行いました。

団体の部

● 思川建設 株式会社



個人の部

● ENEOS喜入基地株式会社
川畑 耕一 さん



● 株式会社 Misumi
登尾 秀則 さん



自衛消防隊消火競技会

令和3年11月12日

11月12日(金)に、新協会となって初めての自衛消防隊消火競技会を開催しました。

男子の部10チーム、女子の部8チームの参加があり、選手宣誓は、鹿児島国際観光株式会社鹿児島サンロイヤルホテルの菊永菜里選手が務めました。

強風のため、競技開始直前で急遽、実施要領の変更を行いました。全チームともしっかりと消火し、訓練の成果が発揮できていました。

〈男子の部〉

優勝 ENEOS喜入基地 株式会社
準優勝 東西オイルターミナル 株式会社
第3位 エス・パックス 株式会社

〈女子の部〉

優勝 鹿児島市役所
準優勝 鹿児島国際観光株式会社 鹿児島サンロイヤルホテル
第3位 株式会社 J R 鹿児島シティ



視察研修

令和3年12月16日～17日

2年ぶりの開催と

なった県外への視察研修。ワクチン接種の影響などにより感染状況が落ち着いてきていた

とはいえ、感染対策にしっかりと配慮しながら、宇部興産株式会社

の伊佐セメント工場と伊佐鉦山(山口県美祿市)、西部石油株式会社

山口製油所(同県山陽小野田市)を訪問しました。

あいにく雨が降る中で、の研修となりましたが、伊佐鉦山では、セメントの原料となる石灰石の採掘現場を車外で見学することができ、幅1キロ以上もある露天掘りの広大な工業造形美に、参加者全員が圧倒されていました。西部石油では、自社の人材育成について説明があり、ヒューマンエアーをいかに減らし、事故が起きた場合でも対応できるよう教育方針がしっかりと確立され、とてもよい刺激になりました。視察先以外では、会員相互の親睦も図られ、有意義な時間を過ごすことができました。



『視察研修に参加して』

南国輸送(株) 安全管理課 平原勝利

今回、鹿児島市自衛防火防協会の視察研修に初めて参加させていただきました。

人数としては事務局を含めて10名、その中でも私は初参加ということもあり当日までもとても緊張しておりましたが、2日間大変貴重な時間を過ごさせていただきました。

特に、視察先が滅多に見学する機会のない場所でしたので勉強になることが多く、研修ではありながらも一個人として各視察地を堪能しておりました。重ねて、事務局の方々をはじめ参加者の方々がとても友好的に接してくださり、出発前の緊張はすっかり解けていました。

視察先は、宇部興産(株)セメント工場と伊佐鉦山、そして西部石油(株)山口製油所への見学でした。

当日はあいにくの雨となりましたが、まず宇部興産(株)伊佐セメント工場では、隣接する伊佐鉦山の全貌をバスから降りて見学することが出来ました。鉦山で石灰石の採掘からセメント製造まで行い、工場からダブルストレーラーでの運搬(臨海宇部地区へ総延長30キロメートルの自社専用道路を使用)も一連して行っているそうで、生産性の高さを目の当たりにしました。更に、工場敷地内での事故防止のために様々な規則が徹底遵守されていたほか、石灰石採掘のための発破に関しては、近隣住民に対する騒音・振動対策が充実し、環境保全に会社全体で努めていることを知り、地域の持続・繁栄に貢献するため「共存同栄」を経営理念に掲げているのとこのことでしたが、納得の一言でありました。

続けて西部石油(株)山口製油所を訪問しました。新型コロナウイルスの感染対策により規制が徹底されており、バスからの見学でした。所員の方々から丁寧な説明をいただき

き、製油所内の各施設や業務内容など細かいところまで研修させていただきました。

193万平方メートル(東京ドーム約40個分)の広大な敷地面積に、380万キロリットルの備蓄性能を持つ貯油タンクが立ち並び、普段なかなか見ることの出来ない精製装置も見学しました。説明の中で印象に残ったのは、製油所における安全対策の取り組みです。私の自社業務の中でも輸送に係わる全てに安全対策がありますが、西部石油(株)が取り組む安全対策に強く共感を持ち、私のこれからの安全管理業務へ活かしていきたい部分もあると感じました。特に、事故などのトラブルに対する直接的な要因の究明と対策だけでなく、「間接的に潜在化している要因に気付く能力を高め、その影響を緩和する」という、事故に繋がりがやすい普段の行動を、事故が発生し難い行動になるように「気づき」の指導を行っているという部分に強く共感いたしました。

自社の安全対策も、事故への究明・対策を徹底したフォローアップ中心の取り組みとなつていきますので、今回の研修内容を今後の安全管理業務に確実に活かしていきたいよう努めてまいります。

最後に、視察研修の合間で文化財等を見学できたほか、宿泊先では夕食時に参加者の皆様と親睦を深めさせていただきました。事務局や各事業所の方々と楽しい談話、色んな情報交換など、とても楽しく貴重な時間を過ごせたことをとても有難く思います。

この素晴らしい視察研修に携わった関係者の方々、そして参加者の方々に厚く御礼申し上げます。2日間の貴重な研修に参加させていただき、本当に有難うございました。

消防出初式

令和4年1月9日

令和4年1月9日、新春を飾る消防出初式が開催されました。昨年に続く新型コロナウイルス感染症対策による式典縮小のため、当日の表彰式が割愛されましたが、後日、優良事業所として市長表彰が決定していた事業所に、賞状と記念品が届けられました。

〈受賞者〉

- 株式会社丸屋本社
- 独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター
- 医療法人 徳洲会
- 鹿児島徳洲会病院
- 社会福祉法人 常盤会
- 社会福祉法人 松和会
- 特別養護老人ホーム 泰山荘
- パシフィックグリーンセンター株式会社 南日本支店
- J A鹿児島県会館
- 有限会社 片平石油
- 株式会社 新日本科学



令和4年度 危険物取扱者保安講習



日程・受付場所

【受付期間】 6月1日(水)～6月21日(火) ※郵送の場合、最終日の消印まで有効

【受付場所】 一般社団法人鹿児島県危険物安全協会 (土曜・日曜・祝日は休業)

【講習日程】

種別	実施場所	期日	種別	実施場所	期日
③	鹿児島市	7月14日(木)	③	鹿児島市	8月25日(木)
①	鹿児島市	7月15日(金)	②	鹿児島市	8月26日(金)
①	鹿児島市	8月24日(水)	①・③	鹿児島市	10月21日(金)

種別①：給油取扱所関係者 種別②：石油コンビナート関係者 種別③：①及び②以外の関係者

※ 鹿児島市以外の開催場所等につきましては、一般社団法人鹿児島県危険物安全協会にお問い合わせください。 電話・FAX 099-257-5200

※「案内書」および「受講申請書」は、4月下旬以降お近くの各消防署にも置いてあります。

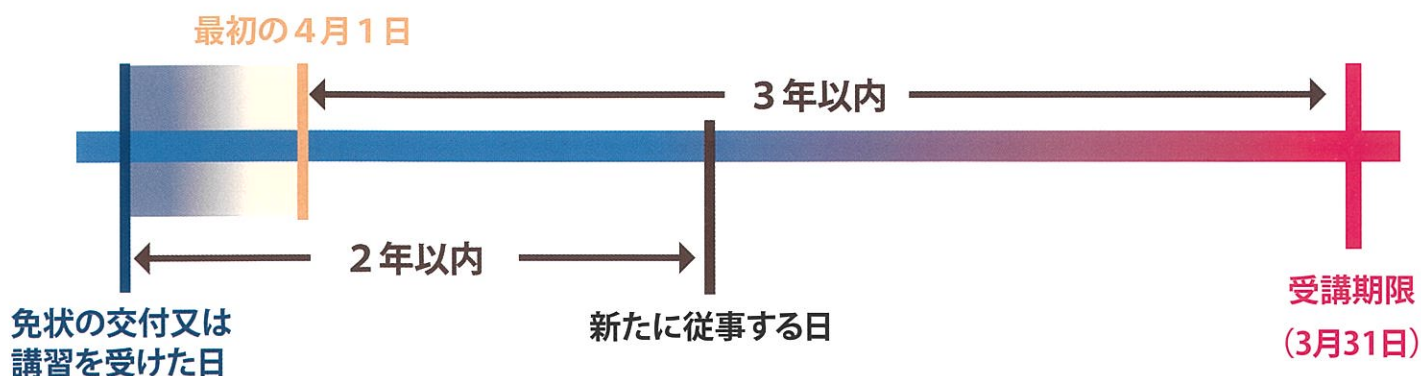


保安講習の受講義務について

危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者免状保有者は、都道府県知事が行う危険物の取扱作業の保安に関する講習(保安講習)を受講する必要があります。(根拠条文 消防法第13条の23)

【保安講習の受講期限】

- ① 継続して危険物取扱作業に従事している危険物取扱者は、前回講習を受けた日以後の最初の4月1日から3年以内ごとに受講する。
- ② 新たに危険物取扱作業に従事する危険物取扱者は、従事することになった日から1年以内に受講する。
- ③ 新たに危険物取扱作業に従事する危険物取扱者で、過去2年以内に免状の交付又は保安講習を受けている場合は、免状の交付を受けた日又は保安講習を受けた日以後における最初の4月1日から3年以内に受講する。



消防の変遷 と 自主防災組織



鹿児島市消防局長
中村 剛

「火事と喧嘩は江戸の華」と言われるように、昔は時代劇でよく見かける「長屋」に代表される木造住宅が密集し、特に冬場は北や北西から吹く乾燥した「空っ風」の影響で、ひとたび火災が発生すると忽ち延焼拡大し、大火となったようです。

これは何も江戸に限らず、当時、鹿児島も同様であったことは想像に難くありません。

書物によると、本市でも大火がしばしば起こっていたにも関わらず、明治初期にいたるまで、消防制度自体が全く確立されていなかったようです。当時は火災が発生すると盤木を打ち鳴らし、住民に消火の出動を促し、各々水桶を持って現場に馳せ参じたそうです。（延焼を食い止めるどころではありま

せん）

明治10年に「鹿児島消防仮規則」が定められて、消防組（当時は警察の所管）の総員50人が配属され、また、警視庁で使われていた消防ポンプ自動車を、鹿児島まで持ってきて配備したのが本県の消防ポンプ車第1号であったようです。その後、消防組の編成見直しや、新たな資機材を装備するなどして、徐々に消防の体制が形作られていき、第二次世界大戦後には、GHQの指導により警察から独立し、昭和23年3月7日に消防組織法が施行されたことで、消防は市町村の責任とされ、現在の自治体消防制度が確立されました。

難な事案も発生いたします。

そこで、平成7年の「阪神・淡路大震災」を機に、緊急消防援助隊制度が発足し、市域・県域を越えた消防の相互応援体制が確立されました。本市では28隊101人を総務省消防庁に部隊登録しております。平成23年の「東日本大震災」「28年の「熊本地震」、そして「令和2年7月豪雨」などの活動実績があります。

このように、全国的な消防の広域応援という、大規模災害時における「公助」の体制はできあがりましたが、「公助」が現場介入するまでは多少の時間を要します。

そこで重要なのが、「鹿児島市自衛防火防災協会」など地域に密着した自主防災組織です。災害時に身を守るための大原則は、まずは「自助」ですが、時間の経過とともに「共助」

による活動が重要になってまいります。さらに、「共助」から「公助」へ円滑に移行するためにも、貴協会と消防局の確固たる連携体制をさらに充実させなければなりません。

今後におきましても各事業所の安全と併せて、市民生活の安心・安全の確保に引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

令和4年度年間計画予定表

4月

・定期監査
・第一回役員会

5月

・新入社員防災研修会
・危険物取扱者試験事前講習会
・第二回定期総会

9月

・第二回放水競技会
・危険物事故事例研修会

10月

・視察研修（県外）
・危険物取扱者試験事前講習会

11月

・第二回消火競技会
・視察研修（県内）

1月

・第二回役員会

